

好酸球性副鼻腔炎

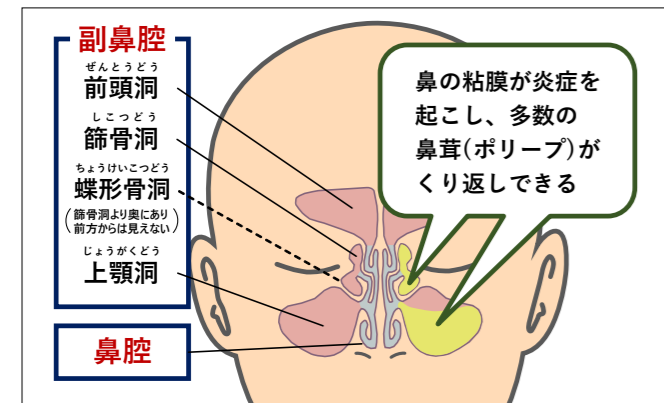
副院長兼耳鼻咽喉科総括部長 田村 公一
 診療部長 藤本 知佐
 医長 山下 貴央

2023年11月発行

好酸球性副鼻腔炎とは

好酸球性副鼻腔炎は、両側の鼻の中に多発性の鼻茸(ポリープ)ができ、手術をしてもすぐに再発する難治性の慢性副鼻腔炎です。一般的な慢性副鼻腔炎は感染による急性副鼻腔炎の症状がなかなか改善せず、炎症が続くなどして発症すると言われていたのですが、保存的治療(薬物治療や吸入治療など)や手術療法の進歩により、かなりの改善が得られます。

ところが、1990年代後半から2000年にかけて、これらの治療を行っても再発を繰り返す難治性副鼻腔炎が増加しました。このような副鼻腔炎を病理学的に調べると、白血球の一種である好酸球という免疫細胞が多数みられ、好酸球性副鼻腔炎と呼ばれるようになりました。



好酸球性副鼻腔炎の例

好酸球性副鼻腔炎の症状

一般的な副鼻腔炎と同じく、膿性・粘性鼻汁や鼻閉(鼻づまり)が見られますが、鼻茸(ポリープ)が鼻の中に多発し、嗅覚障害が強いのが特徴です。嗅覚障害の影響で風味障害を含めた味覚障害を起こすこともあります。

鼻汁がのどに流れる後鼻漏、難治性中耳炎(好酸球性中耳炎)や気管支喘息、アスピリン喘息などの合併もみられ、患者さんのほとんどは20歳以上の成人です。

原因、喘息との関係

原因は不明ですが、アレルギーによる炎症が副鼻腔に起き、好酸球が集まってくることで発症すると考えられています。

また、好酸球性副鼻腔炎の病態は、喘息と密接に関わっています。喘息患者の約50%が好酸球性副鼻腔炎を合併し、逆に好酸球性副鼻腔炎患者の約50~70%は喘息を合併していると言われています。好酸球性副鼻腔炎の治療には喘息の治療、コントロールもしっかり行うことが重要です。

検査・診断

以下のような検査で副鼻腔炎の範囲、程度、合併症の有無や他の疾患の除外診断を行います。

- 鼻鏡・内視鏡検査**：鼻茸の状態(図1)、粘性鼻汁、鼻中隔の湾曲などを確認

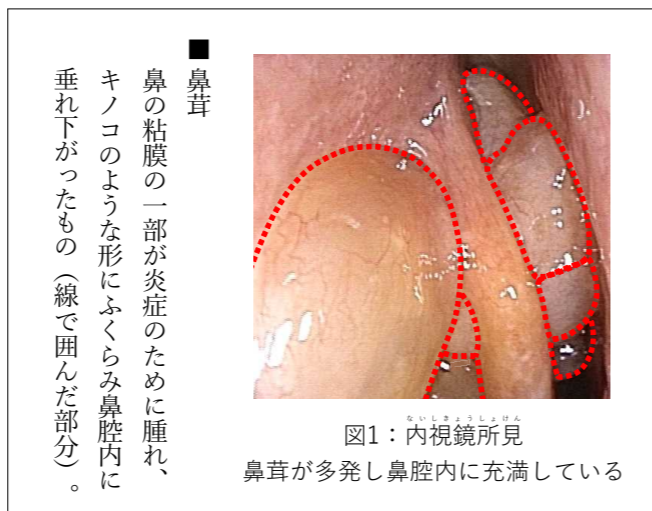


図1：内視鏡所見
鼻茸が多発し鼻腔内に充満している

- 血液検査**：好酸球数、アレルギー検査、血糖値や血清コレステロール値などのチェック
- 画像検査(CT・MRI検査)**：副鼻腔炎の広がり(図2)、真菌症や腫瘍性病変との鑑別(症状の原因を正確に特定すること)

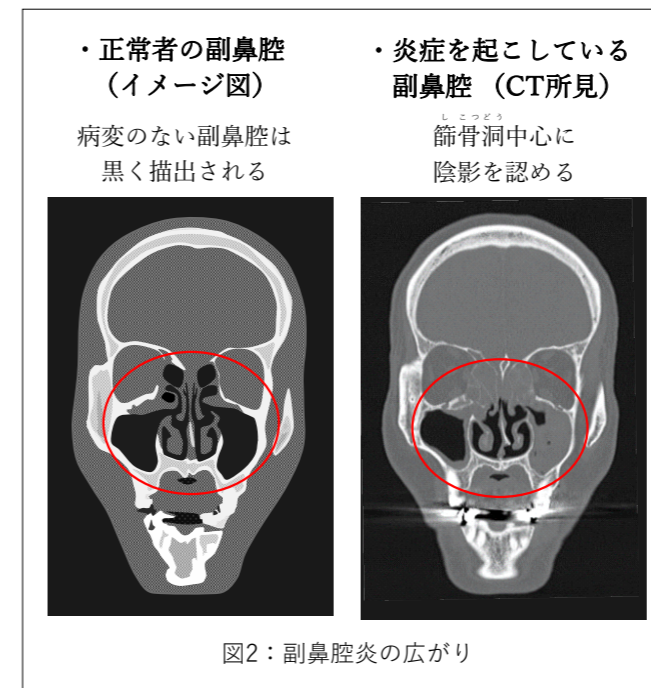


図2：副鼻腔炎の広がり

- 病理検査**：好酸球浸潤の程度、腫瘍との鑑別

好酸球性副鼻腔炎の診断

日本では、全国大規模疫学調査(JESREC study)により作成されたスコアをもとに好酸球性副鼻腔炎の診断、重症度分類を行っています。このスコアの点数と、病理組織検査で鼻茸中の好酸球数が顕微鏡下に1視野(400倍)あたり70個以上あった場合、好酸球性副鼻腔炎と確定診断されます。

また、CT所見、末梢血好酸球率及び合併症の有無による指標で軽症、中等症、重症に分類されます。

当院での治療について

当院では、好酸球性副鼻腔炎の治療に必要な以下の①~③のすべてに対応しています。

- ①**薬物治療**：全身性ステロイド薬の短期投与、噴霧ステロイド薬の点鼻、感染を伴う場合はマクロライド系抗生剤や去痰剤の内服、アレルギー性鼻炎を合併する場合は抗アレルギー剤の内服などで症状のコントロールを行います。

- ②**手術**：薬物治療でコントロール困難な場合は内視鏡下副鼻腔手術を行います。当院ではナビゲーションシステムを用いた安全性・有効性の高い手術を行っており、入院期間は約1週間です。術後3ヶ月程度は比較的多めの通院処置が必要です。



手術中の様子

- ③**生物学的製剤**：生物学的製剤とは、化学的に合成し作られた薬剤ではなく、生物が産生する蛋白質などを医薬品として利用する薬剤のことです。手術後の再発症例や全身性ステロイド治療の無効例、長期投与例などで用います。高額な薬剤ですが、好酸球性副鼻腔炎の指定難病認定を受けられている方は医療費助成があります。

指定難病認定について

重症度分類で中等症以上、または好酸球性中耳炎を合併している場合は、厚生労働省の定める指定難病の認定が受けられ医療費助成の対象となります。

当院では

徳島市民病院耳鼻咽喉科では、年間約60例の鼻副鼻腔手術を行っています。そのうち鼻茸を伴う慢性副鼻腔炎については、術中に採取した鼻茸を病理検査へ提出し、好酸球性副鼻腔炎の診断基準を満たすか調べています。手術後は鼻内の局所処置、鼻洗浄、薬物治療などを行い再発予防に努めています。再発した場合には短期間のステロイド全身投与を行い、症状・所見の改善が得られない場合は、再手術や生物学的製剤の投与を検討しています。

嗅覚障害や鼻閉(鼻づまり)、鼻汁などの症状でお困りの方は、ぜひ一度ご相談下さい。